



SAFE COMMUNITY TOWADA



# 労働の安全対策部会

---

発表者

令和5年11月17日（金）  
労働の安全対策部会  
部会長 十枝内 亘

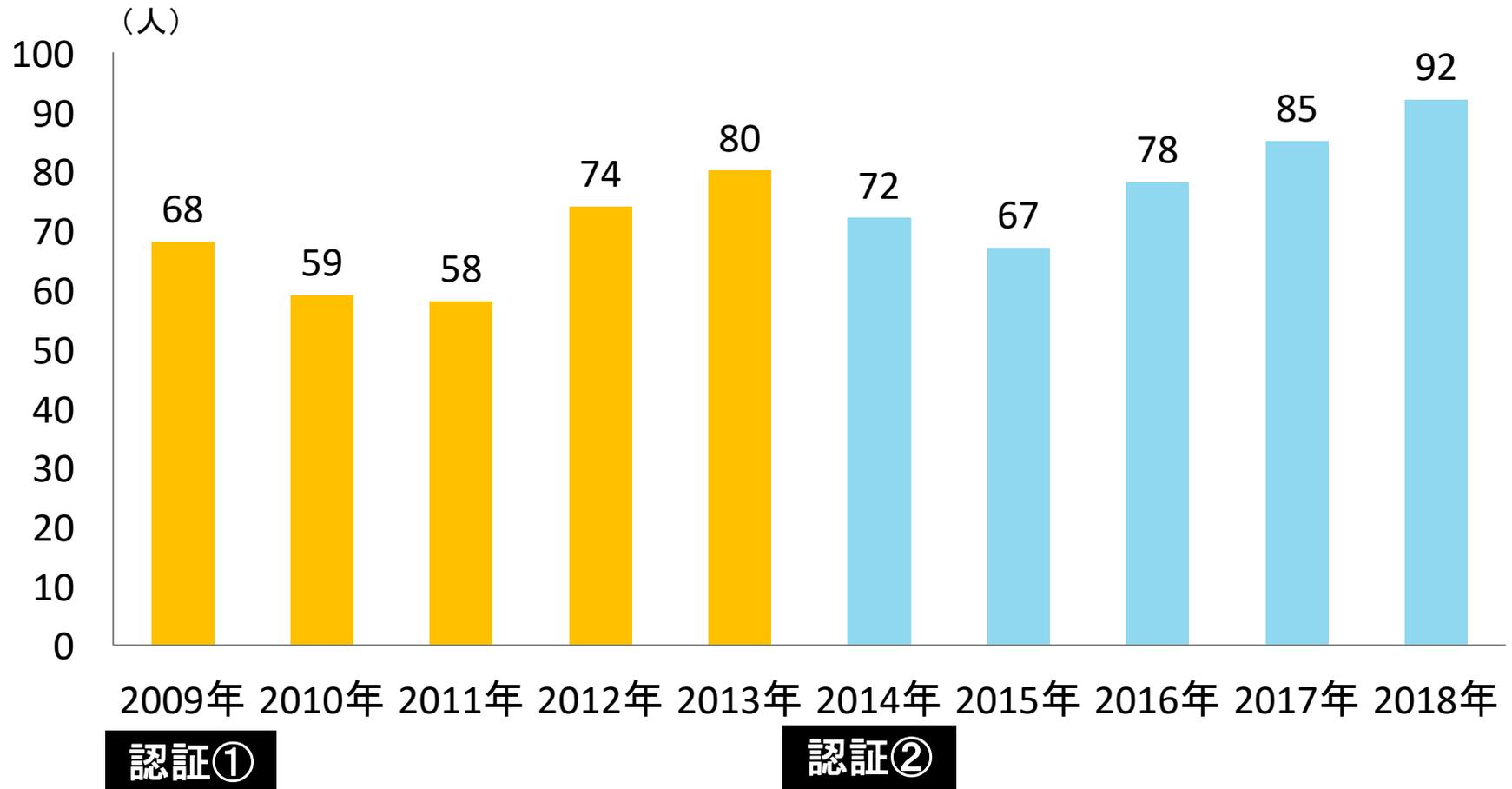
# 労働の安全対策部会員

No.	役職	構成	区分
1	部会長	とわだセーフコミュニティを みんなですすめ隊	市民団体等
2	副部会長	十和田市建設業協会	市民団体等
3	部会員	上北労働基準協会	関係機関等
4	部会員	公益社団法人十和田青年会議所	市民団体等
5	部会員	十和田商工会議所	関係機関等
6	部会員	十和田おいらせ農業協同組合	関係機関等
7	部会員	十和田労働基準監督署	行政関係
8	部会員	十和田市商工観光課	行政関係
9	部会員	十和田市農林畜産課	行政関係

# 部会設置の背景①

## ■労働災害発生件数が上昇傾向

図表1 十和田市内での休業4日以上の労働災害発生状況

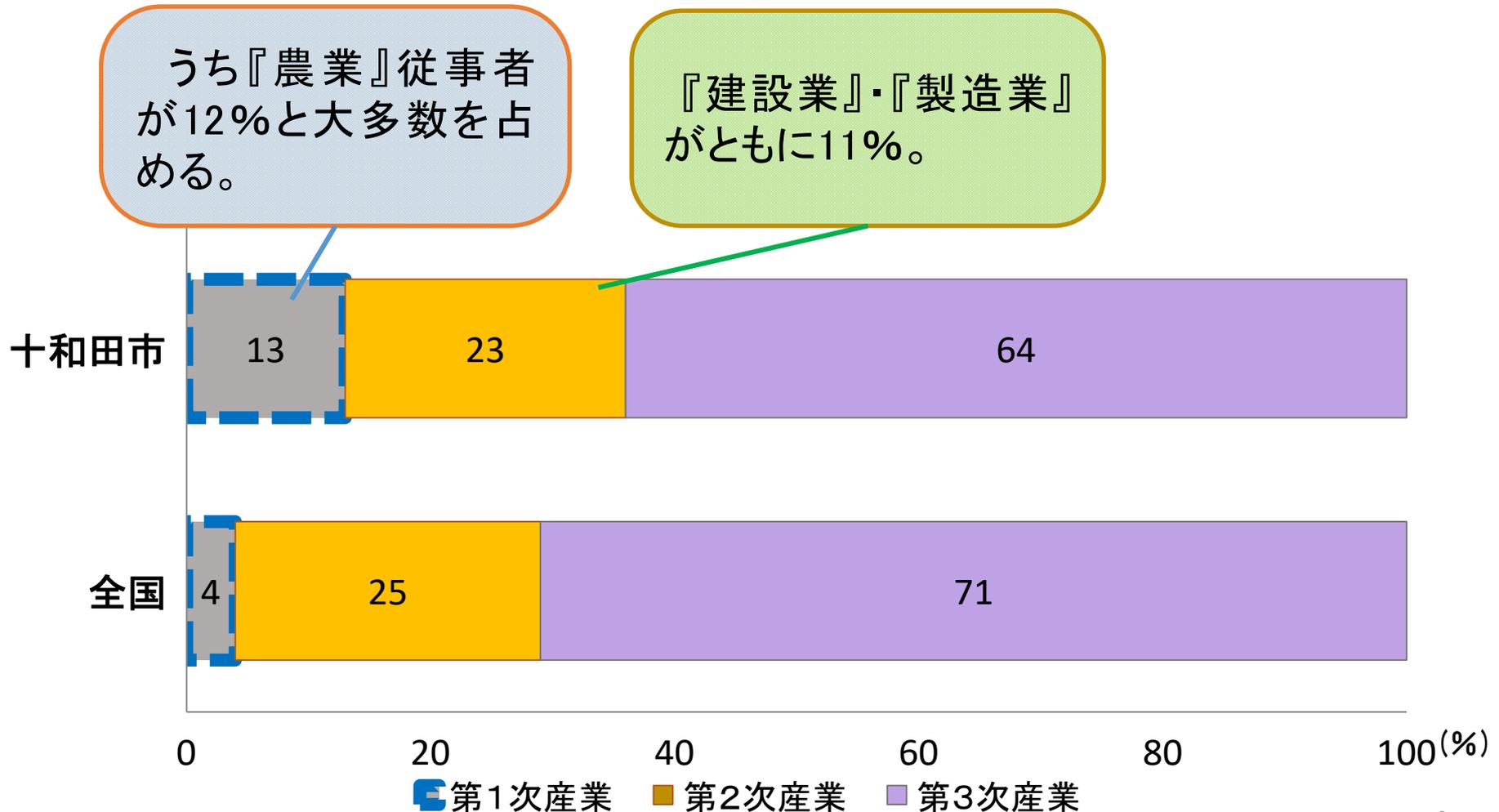


出典: 十和田労働基準監督署 労働者死傷病報告(休業4日以上)

# 部会設置の背景②

■全国的に見て十和田市は第一次産業への就業率が高い

図表2 産業別就業者の割合



出典：国勢調査(2015年)

# 部会設置の背景③

## ■日本の農業の現状

日本は国土が狭いため、諸外国と比較すると、農業は狭い農地で小規模に行われている。

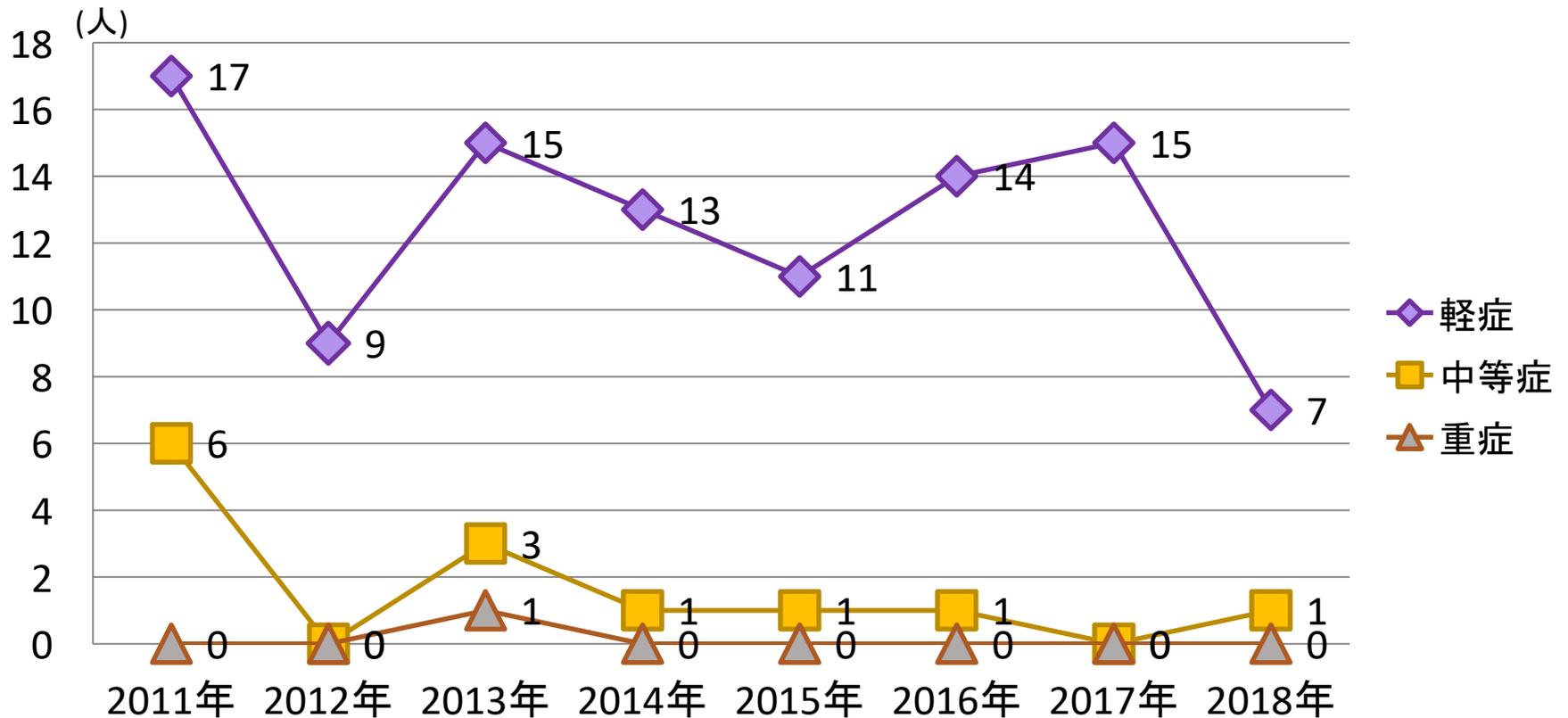
小規模ゆえに、安全対策は個人まかせとなっている。



# 部会設置の背景④

## ■農作業時における受傷は毎年発生している

図表3 農作業中事故病傷程度経年比較

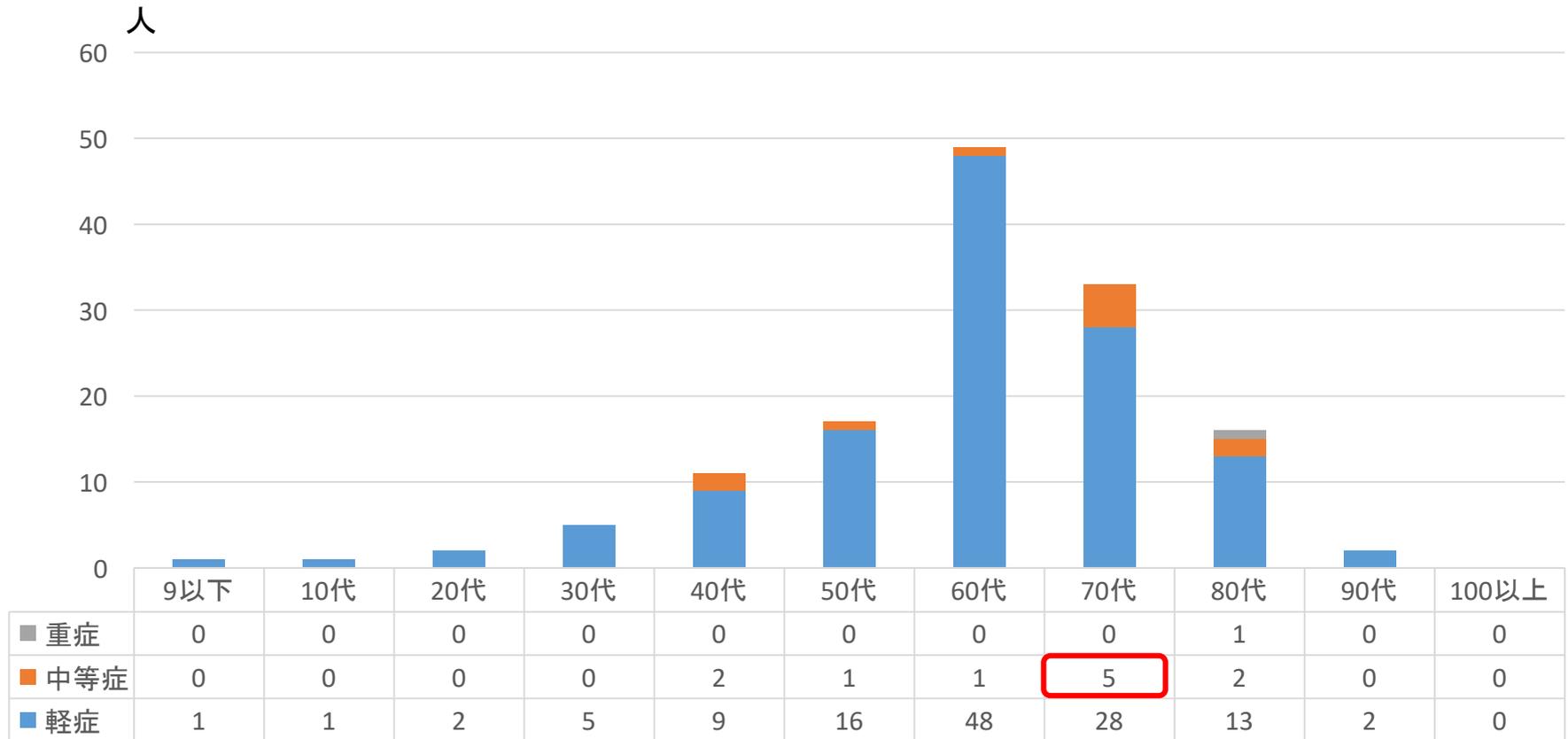


出典:救急搬送及び中央病院受診データ

# データから見る課題①

■農作業の受傷者は60代が最も多く、中等症以上では70代が多い

図表4 農作業 年代別 傷病程度



出典:救急搬送及び中央病院受診データ(2012年~2021年)

# データから見る課題②

## ■農作業中の受傷は機械による受傷が約4割

図表5 農作業中の中等傷以上の受傷のうち機械による割合(n=18)



出典: 救急搬送及び医療機関受診データ(2011年～2021年)

図表6 機械による受傷の内訳

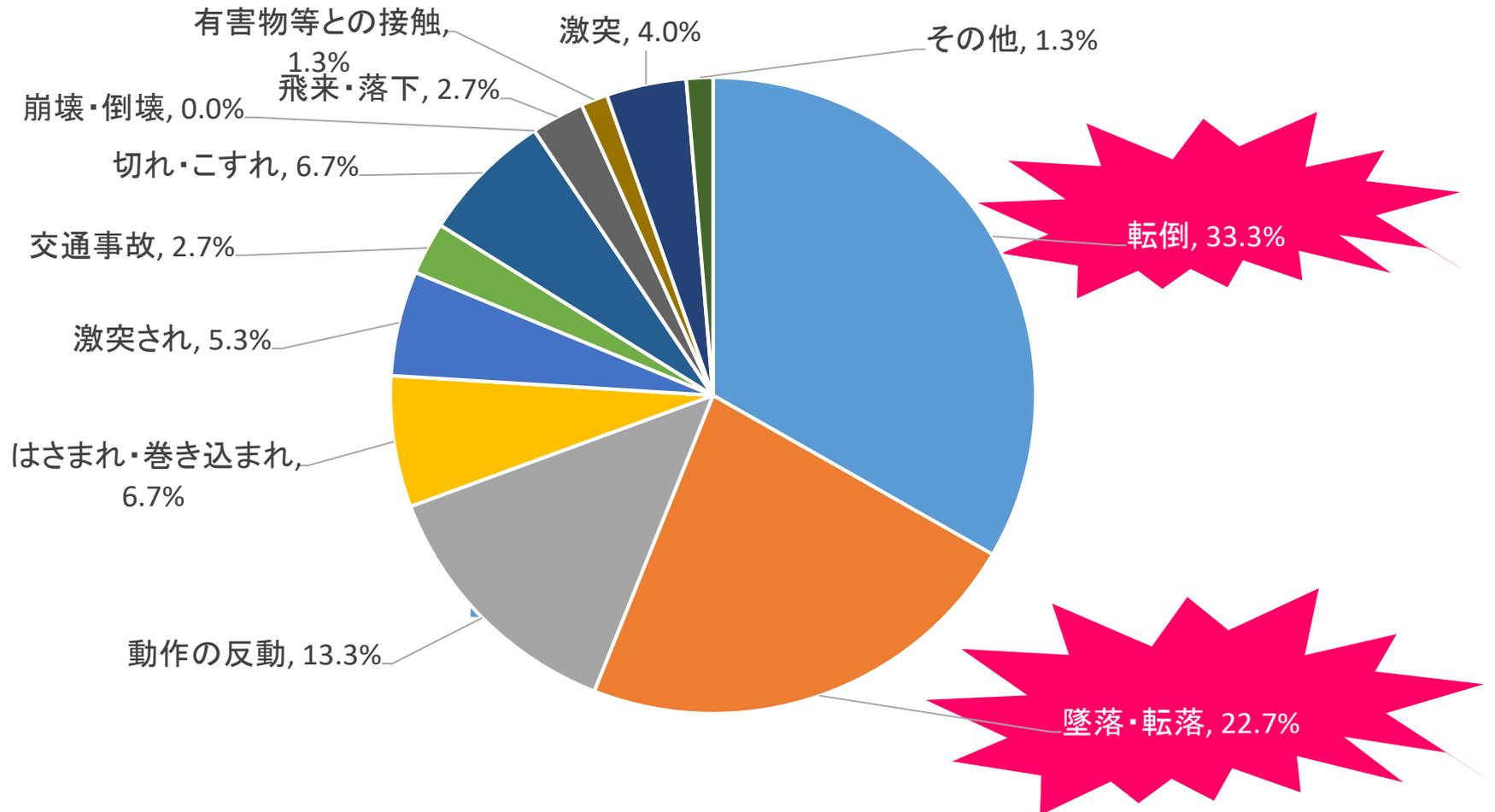
受傷の経緯	傷病名	事故概要
接触又は衝突	左腓骨開放骨折	農作業中、ズボンがトラクターに挟まり巻き込まれ左下腿を負傷
挟む、加圧	右母指末節骨開放骨折	ゴボウを掘る機械に右手を挟んだ
切る、刺す	右足挫傷	チェーンソーで右足、右膝を切った
挟む、加圧	右環指屈筋腱断裂	コンバインに右手を巻き込まれた
挟む、加圧	右中指開放骨折	田植え機に両手を挟む
切る、刺す	右大腿損傷	丸ノコで薪を切っていて、右太ももを切った
切る、刺す	創傷感染症	トラクターのバケットが落ちてきて左足親指を切断

出典: 救急搬送及び中央病院受診データ(2011年～2021年)

# データから見る課題③

## ■転倒することで受傷に至るケースが最も多い

図表7 事故の型別労働災害発生状況



# 課題と取組

課題	取組
<p>①農作業中によるけがは60歳以上に多い。(図表4) 中等症以上の受傷は農機具による割合が大きい。(図表5、6)</p>	<p>①農作業事故防止プログラム</p>
<p>②製造業、建設業等の様々な職種で労働災害が発生しており、転倒・転落を原因とするものが多い。(図表7)</p>	<p>②職場内の転倒・転落事故予防プログラム</p>

# 課題①に対するレベル別の対策

課題	対策			
	方向性	国・県レベル	市レベル	地域レベル
<p>農作業中によるけがは60歳以上に多い。</p>	教育・啓発	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国農作業安全確認運動</li> <li>・青森県農作業安全運動推進計画</li> </ul>	<p><b>対策部会の関わり</b>  <b>農作業事故防止講習</b>  <b>周知活動とアンケート調査</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農機具利用による転倒・転落事故予防安全対策協議会</li> <li>・農作業安全広報</li> </ul>
	規則・罰則			
	環境整備			

# 課題②に対するレベル別の対策

課題	対策			
	方向性	国レベル	県レベル	市レベル
<p>製造業、建設業等の様々な職種で労働災害が発生しており、転倒・転落を原因とするものが多い。</p>	教育・啓発	<ul style="list-style-type: none"> <li>・労働災害防止計画</li> <li>・STOP転倒災害プロジェクト</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・労働災害防止計画</li> <li>・STOP転倒災害プロジェクト</li> <li>・ゼロ災3か月運動</li> <li>・冬期労働災害防止運動</li> <li>・青森県産業安全衛生大会の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・労働災害防止計画</li> <li>・STOP転倒災害プロジェクト</li> <li>・ゼロ災3か月運動</li> <li>・冬期労働災害防止運動</li> <li>・上十三産業安全衛生大会の実施</li> </ul>
	規則・罰則	・労働安全衛生法		
	環境整備			

**対策部会の関わり  
産業安全衛生大会等での  
周知啓発**

# レベル別の対策の事例①

## 課題に対するレベル別の対策事例

課題	農作業中によるけがは60歳以上に多い。
対策事例	<p>◆農作業の安全対策広報</p> <p>市では、各種事業にかかる送付文書に農作業事故防止のチラシを同封し、農業用機械の取り扱いへの注意を呼びかけています。</p> <div data-bbox="1193 525 1740 1305"><p><b>農作業事故に気を付けましょう！</b></p><p>先般、十和田市内において、農業用機械に巻き込まれる重大事故が発生しました。農業用機械の取り扱いには十分に注意しましょう。</p><p>農業用機械で作業するときは・・・</p><p><b>作業前には</b></p><ul style="list-style-type: none"><li>・事前に段差や傾斜など危険な箇所がないか確認しましょう！</li><li>・一人で作業をする場合は、作業場所や帰宅時間を身近な人に伝えておきましょう！</li></ul><p><b>作業中には</b></p><ul style="list-style-type: none"><li>・点検や休憩を取る時には、<u>エンジンが止まっていることを確認しましょう！</u></li><li>・シートベルト・ヘルメットを着用しましょう！</li><li>・段差や傾斜に気を付けて運転しましょう！</li></ul><p><b>作業後には</b></p><ul style="list-style-type: none"><li>・<u>機械のエンジンが確実に止まっていることを確認しましょう！</u></li><li>・ブレーキの連結ロック忘れがないか確認しましょう！</li></ul><p>十和田市 農林商工部 農林畜産課 農政推進係 TEL：0176-51-6736</p></div>



# プログラムの運営状況

区分	進行状況				
	2019年 (認証③)	2020年	2021年	2022年	2023年
①農作業事故防止プログラム		 継続			
	農作業事故防止講習等での周知啓発				
②職場内の転倒・転落事故予防プログラム		 継続			
	産業安全衛生大会等での周知啓発				

# 農作業事故防止プログラム

<b>課題</b>	農作業時のけがが発生している	
<b>目標</b>	農機具による事故防止を図る	
<b>内容等</b>	農作業時の安全対策や農機具による事故を予防するために農業機械の安全操作技術講習会の周知や農業従事者への注意喚起を行う	
	<b>【財源】</b>	JA
	<b>【対象】</b>	農業従事者
	<b>【活動】</b>	既存の「農作業機械の安全な使い方現地講習」を活用
	<b>【人材】</b>	JA、農機具業者、県、市役所
<b>(短期) 認識や知識の変化</b>	<b>【指標】</b> 応急処置等の知識を身につけている人の割合	<b>【測定】</b> 農作業安全確認アンケート
<b>(中期) 態度や行動の変化</b>	<b>【指標】</b> ・作業前の安全対策を行っている人の割合 ・農業機械の安全対策を行っている人の割合	
<b>(長期) 状態や状況の変化</b>	<b>【指標】</b> 農場、農地での受傷者数	<b>【測定】</b> 救急搬送及び中央病院受診データ

# プログラムの活動内容①

## 農作業事故VR体験会の実施

**農業者の農作業事故はその後の人生に大きな影響を与えてしまうことから、これを防止するために動画による啓発を行う。**

**JA十和田おいらせ野菜振興会の総会に合わせて開催**

**参加者は専用の機器を頭部に装着し、タブレットを操作しVR映像を再生。**



# プログラムの活動内容②

農作業前の服装や農機具使用による事故予防を呼びかける。

区分	農機具等	講習内容
—	トラクター	ほ場出入りの横転
長芋・ごぼう	掘り取り機	足元の崩れ、巻き込まれ
にんにく	収穫機	巻き込まれ、機械の横転
ねぎ	皮むき機	根、葉切断部による手、指の切断

図表 8 農作業機械の安全な使い方現地講習の開催状況

実績	実績											
	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020 ～ 2021
現地講習 会 参加者	3回 95人	1回 90人	1回 46人	2回 105 人	2回 69人	デー タ 無 し	620 人	35人	開催 なし	開催 なし	1回 103 人	開催 なし

# プログラムの活動評価①

## ■農作業前の安全対策アンケート結果（短期・中期）

区分	2018年 (n=146)	2020年 (n=255)	2021年 (n=21)
(短期)事故に備え、 応急処置の知識を身 につけている人	19.2%	35.7%	33.3%
(中期)作業内容・場 所を家族などに伝え ずに作業にあたった ことのある人	46.6%	47.1%	9.5%
(中期)携帯電話を持 たずに作業に出かけ たことのある人	60.3%	37.7%	19.1%



# プログラムの活動評価②

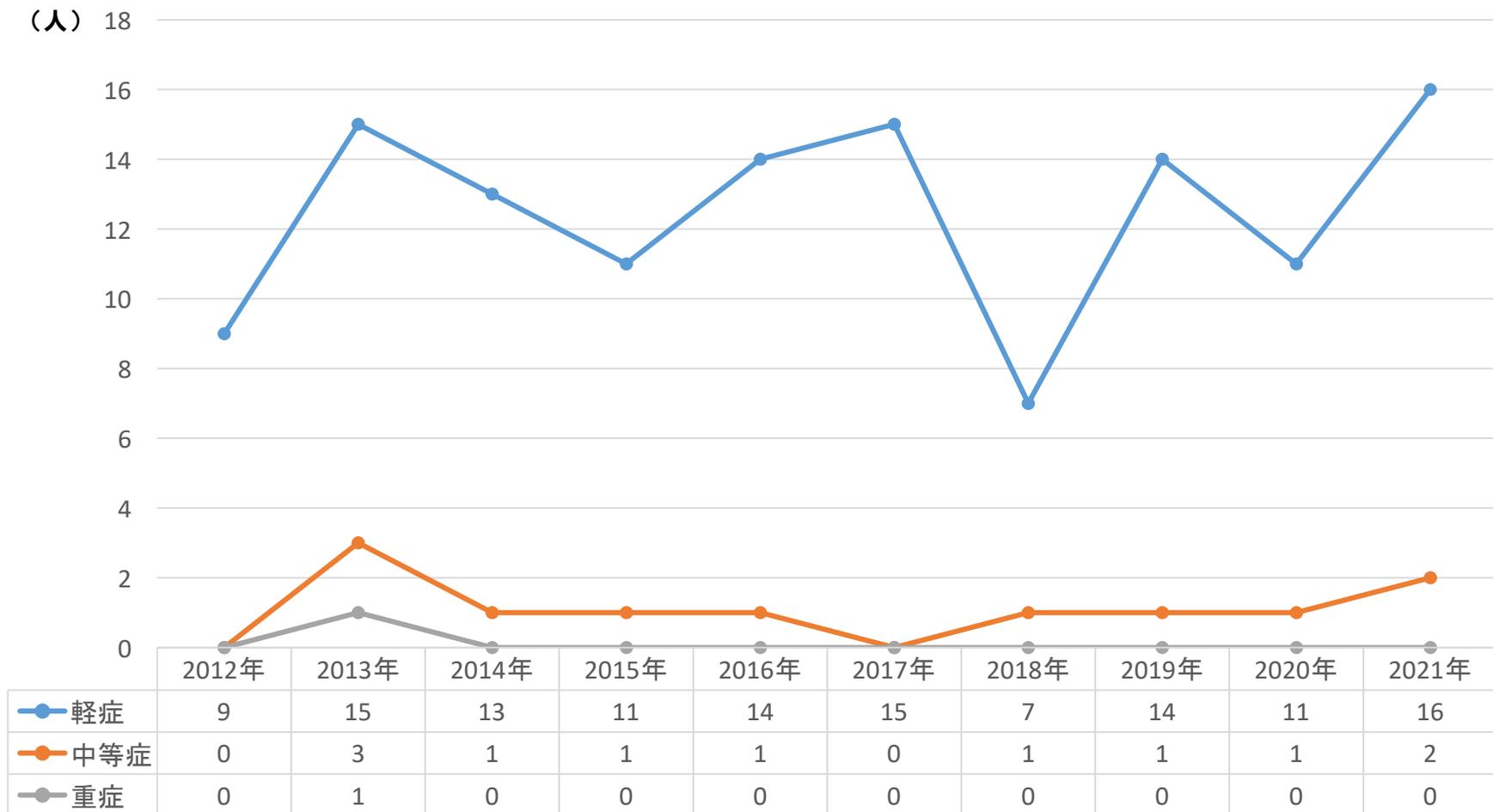
## ■農業機械の安全対策アンケート結果（中期）

区分	2018年 (n=146)	2020年 (n=255)	2021年 (n=21)
(中期)機械、器具の安全装置や防護カバーの装着をせずに作業したことがある人	34.9%	27.5%	14.3%
(中期)機械のエンジンを止めずに機械から離れたり機械のつまりを取り除くなどの作業をしたことのある人	32.2%	32.9%	38.1%



# プログラムの活動評価③

■図表9 農作業中事故種別傷病程度データ経年比較（長期）



出典：救急搬送及び中央病院受診データ

# 転倒・転落事故予防プログラム

<b>課題</b>	労働災害の主な受傷原因は転倒、転落となっている	
<b>目標</b>	労働災害による受傷者数を減らす	
<b>内容等</b>	労働災害の主な受傷原因として転倒、転落が多いことを周知する	
	<b>【財源】</b>	上北労働基準協会
	<b>【対象】</b>	労働者
	<b>【活動】</b>	安全衛生大会を活用
	<b>【人材】</b>	上北労働基準協会、労働基準監督署
<b>(短期) 認識や知識の変化</b>	<b>【指標】</b> 転倒・転落による予防対策を行っている事業者の割合	<b>【測定】</b> 安全衛生大会参加者アンケート
<b>(中期) 態度や行動の変化</b>		
<b>(長期) 状態や状況の変化</b>	<b>【指標】</b> 労働災害の発生件数	<b>【測定】</b> 労働者死傷病報告

# 取組状況

上北労働基準協会が主催する、様々な職種が参加する産業安全衛生大会で、労働災害の発生状況について周知を図っている。特に受傷原因の多い転倒、転落事故予防に関してはパンフレット等を配布し、呼びかけている。

## 【産業安全衛生大会参加者数】



### これまでの実績

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	(年)
600	650	650	600	700	650	700	800	600	500	中止	中止	350	400	(人)

出典：上北労働基準協会調べ

# プログラムの活動内容①

## 冬季に特に多い転倒災害や転倒予防の啓もう活動のパンフレット

### 冬期特有の労働災害を防止しましょう！

#### ～令和4年度冬期労働災害防止運動～

積雪寒冷地である青森県内においては、冬期における降雪、低温、強い季節風等の冬期特有の気象条件の影響を受け、積雪・凍結・寒冷に起因した転倒、墜落、交通事故等の労働災害（以下「冬期労働災害」という。）が多発しており、大雪であった昨冬（11月～3月）における労働災害死傷者数（休業4日以上）のうち冬期労働災害によるものは、令和3年度は316人で前年度と比較して105人（49.8%）の大幅な増加となり、年間の労働災害発生件数を底上げしている状況にあります。

このため、当局では、冬期間のうち特に冬期労働災害が多発する12月1日から翌年2月28日までの3か月間について、労働災害防止団体、事業者団体等と連携し、事業場における自主的な安全衛生管理活動の一層の推進を図り、本年度の冬期労働災害の減少を目指して「令和4年度冬期労働災害防止運動」を実施することといたしました。

**重点目標：転倒、墜落及び交通事故による冬期労働災害の減少**

**実施期間：令和4年12月1日から令和5年2月28日までの3か月間**  
**（準備期間：令和4年11月1日～令和4年11月30日）**

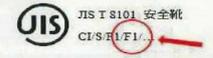
事業場の皆様方におかれましては、冬期労働災害防止対策に積極的に取り組んでいただきますようお願いいたします。

なお、本年度の本運動については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に十分に留意するようお願いいたします。

詳細は、青森労働局ホームページに掲載しています。

**職場での転倒にご注意ください！**

### 転倒予防のために適切な「靴」を選びましょう

<b>サイズ</b> 靴と足はフィットしていますか？ 足に合った靴は疲労の軽減、事故の防止につながります。 	<b>屈曲性</b> 親指から小指の付け根を過度に曲げられますか？ 靴の屈曲性が悪いと、疲労の蓄積、擦り足になりやすく、つまずきの原因となります。 
<b>重量バランス</b> 靴の前後の重さのバランスはとれていますか？ 靴の重量がつま先部に偏っていると、歩行時につま先部が上がりにくく、つまずきやすくなります。 	<b>つま先部の高さ</b> つま先から床面まで一定の高さがありますか？ つま先の高さが低いと、ちょっとした段差につまずきやすくなります。 
<b>靴底の減り具合</b> 靴底がすり減っていませんか？ 靴底の減りが大きい靴は、滑りやすくなります。 	<b>耐滑性の有無</b> 靴の滑りにくさを確認していますか？ 耐滑性を有する靴は、以下の箇所で確認できます。 <ul style="list-style-type: none"><li>■安全靴の場合 個装箱のJISマーク表示の近くに「F1」または「F2」の表示があるか確認してください。 </li><li>■ブロスニーカーの場合 靴のべら裏面の表示に、耐滑性のピクト表示があるか確認してください。 </li></ul>
<b>その他の性能</b> <ul style="list-style-type: none"><li>■静電気帯電防止性 静電気帯電による放電着火の防止と低電圧での靴底からの感電防止性能。 </li><li>■耐衝撃性 かかと部の衝撃エネルギー吸収性にかかとのクッション性に関係し、かかと部の疲労防止性能。 </li><li>■耐鋭物突き性 釘などの鋭利なものから足裏を防護する性能。 </li></ul>	<b>STOP! 転倒災害プロジェクト</b> 厚生労働省と労働災害防止団体は、労働災害のうち最も件数が多い「転倒災害」を減少させるため、「STOP! 転倒災害プロジェクト」を推進しています。 

日本安全靴工業会 | 日本プロテクティブスニーカー協会 | 厚生労働省

# プログラムの活動内容②

## はしごや脚立からの墜落・転落災害防止や職場での転倒等の予防パンフレット



**小さなことからコツコツと…  
職場での転倒・腰痛予防に努めましょう!**

### 滑り<sup>!!</sup>の予防ポイント



水や油で濡れた床、サイズが合っていない靴底がすり減っていたりする靴などは、転倒の原因になります。

- 床の清掃をこまめに行い、水や油などは取り除くようにしましょう。
- 滑りやすい場所には、注意を促す標識をつけましょう。
- 転倒予防には靴選びも大切です。足のサイズにきちんと合わせて、靴底が滑りにくいものを選びましょう。また、靴底が大きくすり減ってきたら、すぐに買い換えましょう。

### つまみずき<sup>!!</sup>の予防ポイント



歩きスマホや荷物の放置などは、つまみずきで転倒する危険性があります。

- スマホなどを見ながら歩かず、足元が見える状態で歩きましょう。
- 床の段差は、スロープで解消する、トラテープで段差をわかりやすくする、注意喚起の標識を掲示するなどの対策を行きましょう。
- 荷物は、通路、出入口などに放置せず、日ごろから整理・整頓を行きましょう。

### 踏み外し<sup>!!</sup>の予防ポイント



照明が暗い、大きな荷物を抱えているなど、足元の見えづらい状態は階段の踏み外しにつながります。

- 階段付近は十分な明るさを確保し、足元が見える状態で昇り降りしましょう。
- 階段には物を放置せず、日ごろから整理・整頓を行きましょう。

### 腰痛<sup>!!</sup>の予防ポイント



重い荷物の持ち上げなど、腰に大きな負担のかかる作業は非常に危険です。また、滑り、つまみずき、踏み外してバランスを崩すと、腰痛につながる可能性があります。

- 台車などの道具を使用するようにしましょう。道具を使用するのが難しい場合は、ひとりで持ち上げず、誰かに手伝ってもらおう声をかけましょう。
- 荷物を床面から持ち上げる際は、荷物に近づいて、しゃがんだ状態で抱え、ひざを伸ばして立ち上がるなど、適切な作業姿勢・動作を意識しましょう。
- 無理のない範囲でのストレッチも効果的です。

**スベリヤムチャはアカン! 吉本芸人の特別動画公開中!**



職場での転倒や腰痛は、ちょっとした工夫で予防ができます。吉本興業の人気芸人が楽しく、わかりやすく伝えるスペシャル動画を公開中。相方が怪我をしたら、あのネタはどうなる…? 気になる方は動画をチェック!



動画はこちらから▶

**労働者、雇用主の皆さまへ** **はしごや脚立からの墜落・転落災害をなくしましょう!**

はしごや脚立は、ごく身近な用具であるため、墜落・転落の危険をそれほど感じずに使用する機会が多いのではないのでしょうか。しかし、過去の災害事例を見ると、骨折などの重篤な災害が多数発生し、負傷箇所によっては死亡に至る災害も少なくありません。

このパンフレットを参考に、安全を確保した上で、はしごや脚立を適切に使用してください。

**ポイント 1** はしごや脚立に関する災害発生原因の特徴を踏まえた安全対策をとり、想定される危険を常に予知しながら、はしごや脚立を使用しましょう。▶▶▶ P 2 参照

**ポイント 2** はしごや脚立は、足元が不安定になりやすく危険です。まず、代わりとなる床面の広いローリングタワー（移動式足場）や作業台などの使用を検討しましょう。▶▶▶ P 3 参照

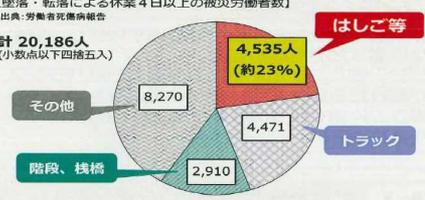
**ポイント 3** はしごや脚立を使用する際は、高さ1m未満の場所での作業であっても墜落時保護用のヘルメットを着用して、頭部の負傷を防ぎましょう。▶▶▶ P 4 参照

統計資料 「はしご等」に関する災害（死傷および死亡） ※「はしご等」：はしご、脚立、作業台など

**① 「はしご等」は墜落・転落災害の原因で最も多い**  
(平成23年～27年 5年平均)

【墜落・転落による休業4日以上の被災労働者数】  
出典：労働者死傷病報告

計 20,186人  
(小数点以下四捨五入)



**② 毎年30人弱の労働者が「はしご等」からの墜落・転落により亡くなっている**

【過去5年間の墜落・転落による死亡労働者数】  
出典：死亡災害報告



参考：労働安全衛生総合研究所による調査分析より

**脚立に起因する労働災害の分析**

平成18年の休業4日以上の労働者死傷病報告から単純無作為法により抽出された34,195件（全数の25.5%）を分析した結果、脚立に起因する災害は、992件（うち墜落・転落災害は約86%）であり、傷病部位および傷病名は以下のグラフのとおりであった。

**【傷病部位別】 (%)**



**【傷病別】 (%)**



**グラフからわかること**

【傷病部位別】  
下肢と上肢で、全体の半数以上を占めている。

【傷病別】  
骨折が全体の約3分の2を占め、重篤な災害につながりやすい。

**厚生労働省・都道府県労働局・労働基準監督署**

# プログラムの活動評価①

## ■産業安全衛生大会参加者に対するアンケート(短期・中期)

昨年1年間のうち、仕事上のけがにより会社を休んだり、退職したりした従業員がいるか

項目	2019年(n=134)		2022年(n=62)	
休んだ人がある	25	18.7%	10	16.1%
退職した人がある	8	6.0%	4	6.5%
休んだ及び退職した人がある	1	0.7%	0	0.0%
いない	96	71.6%	48	77.4%
無回答	4	3.0%	0	0.0%

従業員に対して転倒・転落によるけがの予防対策を行っているか

項目	2019年(n=134)		2022年(n=62)	
行っている	77	57.5%	35	56.5%
行っていない	47	35.1%	27	43.5%
無回答	10	7.4%	0	0.0%

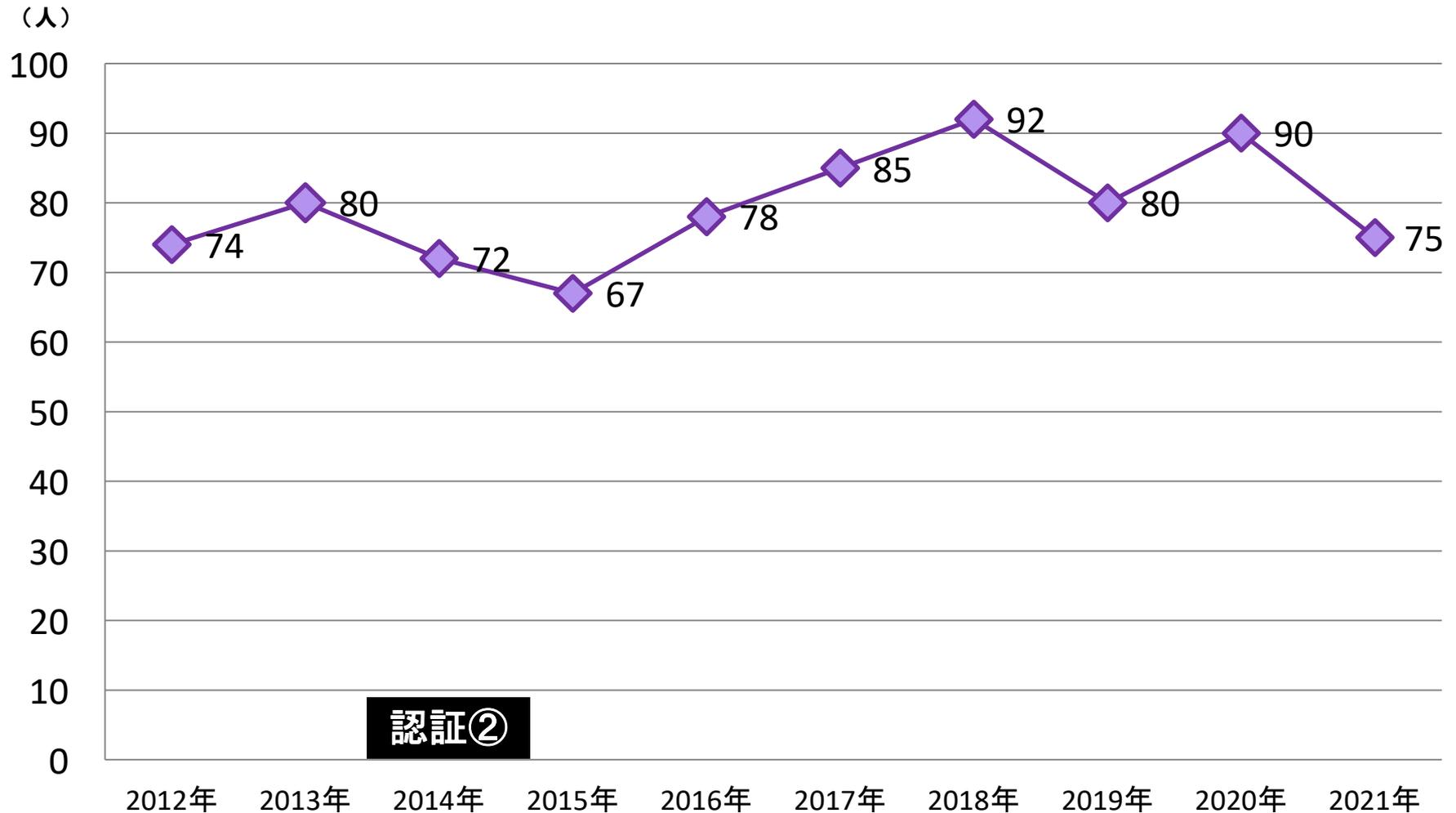
従業員に対して雪道での転倒によるけがの予防対策を行ったか

項目	2019年(n=134)		2022年(n=62)	
行った	66	49.3%	35	56.5%
行っていない	50	37.3%	27	43.5%
無回答	18	13.4%	0	0.0%

出典:企業や事業所等の安全対策に関する調査

# プログラムの活動評価②

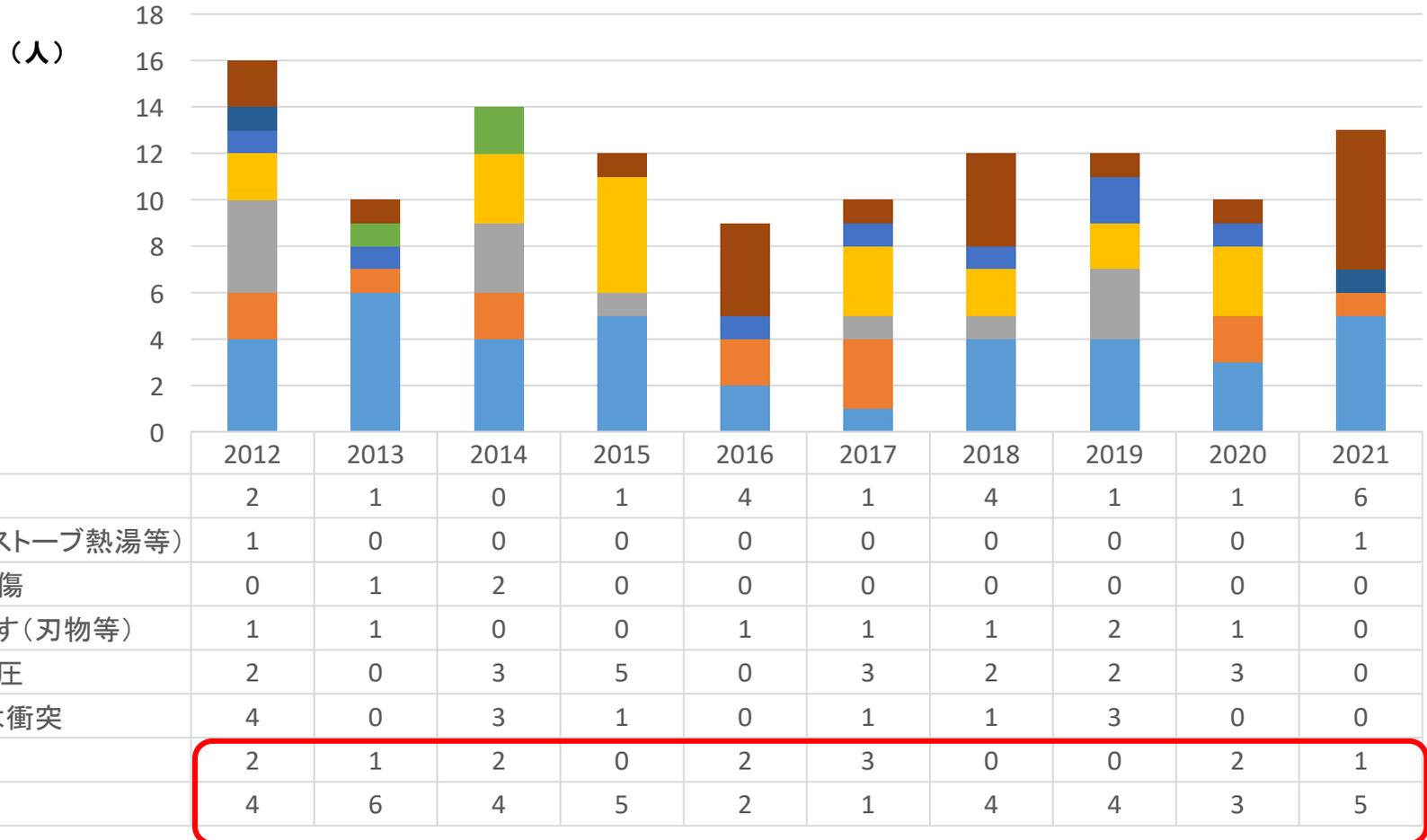
■図表10 労働災害の発生件数(長期)



# プログラムの活動評価③

## ■図表11 労働災害の発生件数(長期)

労働(労働災害)事故種別 受傷経緯 経年比較 【中等症以上】



出典:救急搬送及び中央病院受診データ(2012年～2021年)

# 新規プロジェクトの開始

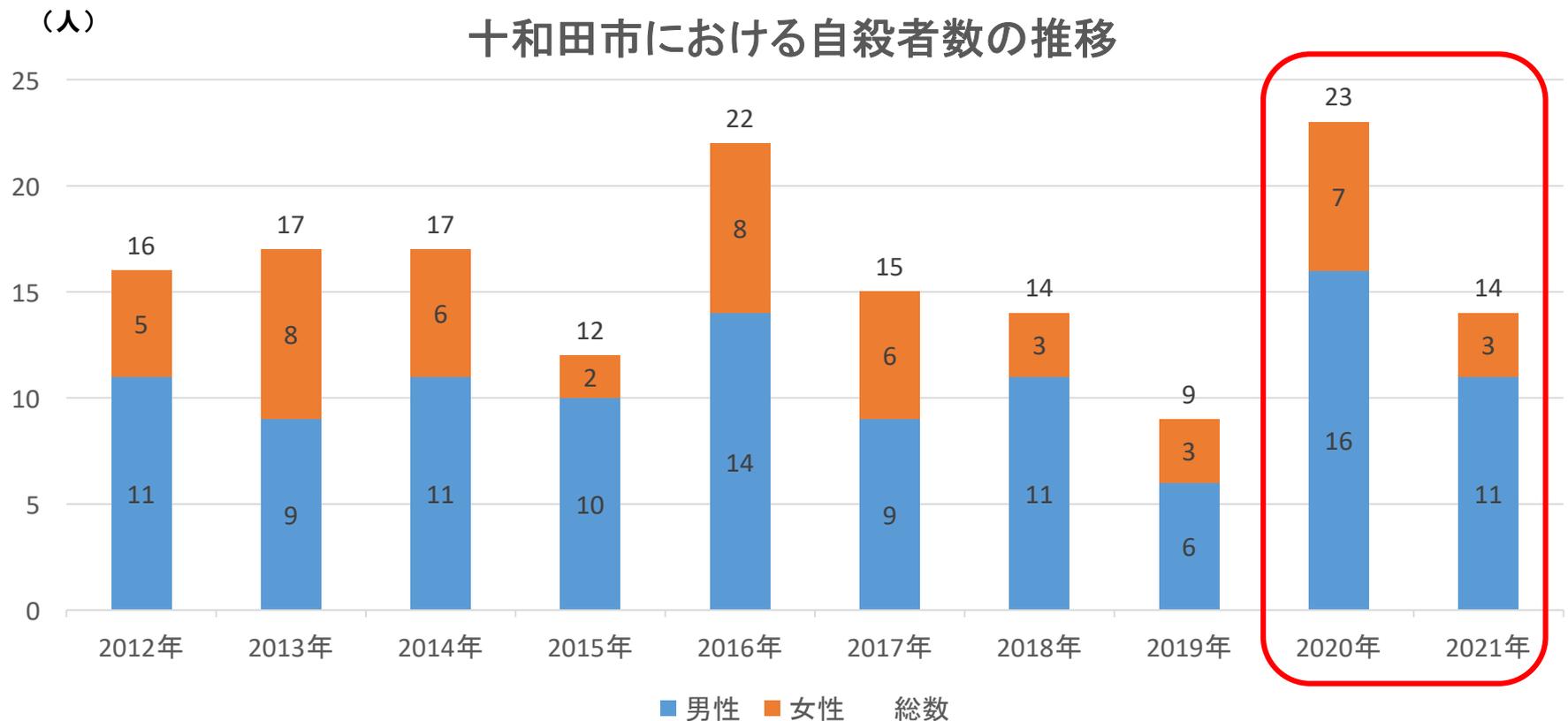
- 各部会が、その分野にネットワークを築けた。
- 当部会は、部会員を通じて事業者・事業所にアクセスできる。
- 一方、部会単独で活動していても限界がある。



- 各部会が得意分野(ネットワーク)を持ち寄り、協同することで、力を発揮できる。
- 自殺予防部会に協力する新規プロジェクトを始めた。

# データから見る課題①

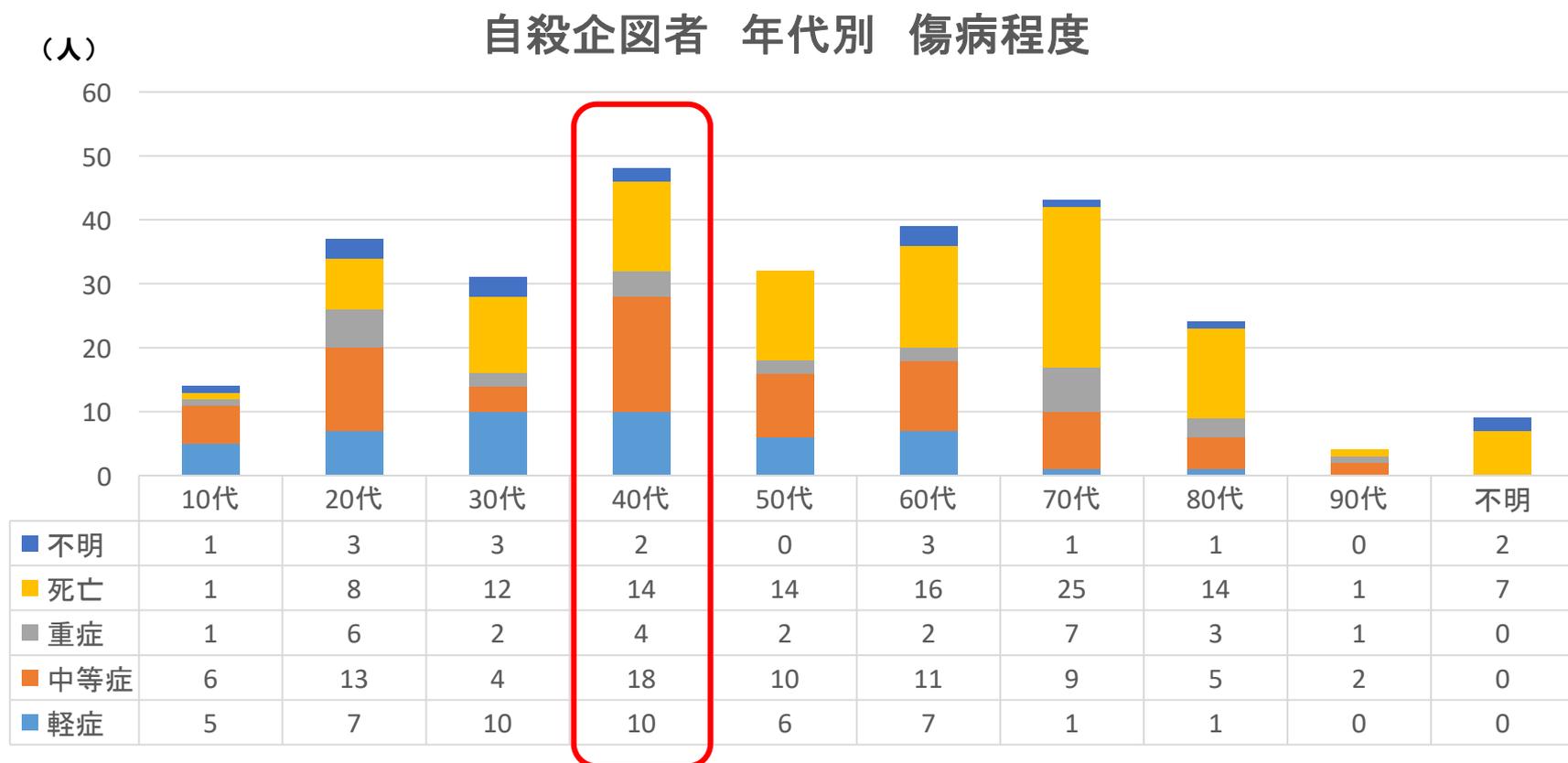
■図表12 コロナ禍の中、自殺者数が増加



出典:厚生労働省 人口動態統計(2009年~2021年)

# データから見る課題②

■図表13 働き盛りである40代の自殺企図者数が最も多い



出典:救急搬送及び中央病院受診データ(2012年~2022年)

# データから見る課題③

## ■産業安全衛生大会参加者に対するアンケートで収集していたデータ

昨年1年間のうち、心の健康の不調で仕事を休んだり、退職したりした人がいるか

項目	2019年(n=134)		2022年(n=62)	
休んだ人がいる	21	15.7%	7	11.3%
退職した人がいる	6	4.5%	1	1.6%
休んだ及び退職した人がいる	0	0.0%	1	1.6%
いない	91	67.9%	53	85.5%
無回答	16	11.9%	0	0.0%

従業員の心の健康(メンタルヘルス)について不安を感じているか

項目	2019年(n=134)		2022年(n=62)	
感じている	50	37.3%	16	25.8%
感じていない	69	51.5%	46	74.2%
無回答	15	11.2%	0	0.0%

出典:企業や事業所等の安全対策に関する調査

# 課題③に対するレベル別の対策

課題	対策			
	方向性	国・県レベル	市レベル	地域レベル
15～65歳における自殺予防	教育・啓発	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲートキーパー養成推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域健康教室</li> <li>・こころの健康講座</li> <li>・ゲートキーパー養成講座)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全事業所にステッカーを配布</li> </ul>
	規則・罰則	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自殺対策基本法</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自殺対策計画</li> </ul>	
	環境整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自殺対策推進センターの設置及び運営</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・こころの相談</li> <li>・自殺対策推進本部の設置</li> </ul>	

**ステッカー周知活動**

# 悩みの相談窓口周知プログラム

<b>課題</b>	心の健康の不調による休職・退職者が一定数いる	
<b>目標</b>	自殺対策部会と連携し、自殺企図者を減らす	
<b>内容等</b>	自殺対策部会と連携して作成した相談窓口先を掲載したステッカーを各職場へ掲示依頼する。	
	<b>【財源】</b>	十和田市
	<b>【対象】</b>	労働者
	<b>【活動】</b>	既存の「労務管理セミナー」を活用
<b>【人材】</b>	上北労働基準協会、労働基準監督署	
<b>(短期) 認識や知識の変化</b>	<b>【指標】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・心の健康の不調による休職・退職者数の割合</li> <li>・自殺企図者数の割合</li> </ul>	<b>【測定】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安全衛生大会参加者アンケート</li> <li>・緊急搬送及び中央病院受診データ</li> </ul>
<b>(中期) 態度や行動の変化</b>		
<b>(長期) 状態や状況の変化</b>		

# 新規プログラムの活動状況

## 相談窓口の連絡先を掲載したステッカーの掲示依頼



自殺予防対策部会との合同会議の様子

# 取り組みによる気付き

- **高齢者の受傷者が多くなっており、農業機械による重篤な事故につながっている。**
- **全産業において、安全対策への意識を高めていくことが必要である。**
- **「事業所等の安全対策に関するアンケート」から、仕事中のけがのほか心の健康の不調（コロナ禍の影響含む）による休職・退職者が一定数いる。**

# 課 題

- **事故、災害の受傷者数の減少**
- **継続した安全対策等による意識啓発**
- **効果的な各部会との連携**

# 今後の計画

2019年  
(認証③)

2020年

2021年

2022年

2023年

2024年  
(認証④)

## ①農作業事故防止プログラム

【継続】農作業事故防止講習会でのアンケート調査(啓発活動)

## ②職場内の転倒・転落防止プログラム

【継続】産業安全衛生大会でのアンケート調査(啓発活動)

## ③悩みの相談窓口周知プログラム

【新規】相談窓口の連絡先を掲載したステッカーの掲示依頼



# ご清聴ありがとうございました

## 今日も無事でいてほしい



十和田市セーフコミュニティ推進マーク  
「十」 十和田市の安全な街並み、  
「和」 美しい郷土・十和田湖と紅葉、  
「田」 人々の協働・交流・絆を表現